

森林工芸館の あれこれ

no.14
5
2021

先月号でお伝えした「オケクラフトの歴史」
オケクラフトが誕生した背景を
少し知つていただけたのではないでしようか?
裏作工芸として始まったクラフト製作
人気を博した置戸町のクラフト
生業としての道を歩みはじめたオケクラフト
いまに続く作り手の養成は
試行錯誤の連続でした

あらためて
養成塾って何をしている?
どんなことをしている?
どんなことを教えている?
共同工房ってどんな風に使用されている?
オケクラフトを知つてもらうために
養成塾研修の内容を少しお伝えします

裏作工芸から生業へ歩む

オケクラフト 研修生制度

きほんのおはなし…【オケクラフト研修生制度】

1984年(昭和59年)オケクラフト誕生の翌年。まちの産業としてオケクラフトを進めていくため、作り手養成が急務の課題となりました。そのため、研修終了後、町内でクラフトの生産活動に従事することを条件とした本制度がはじまりました。



人と、木と、おけと

作り手養成のうごき

►裏作工芸として始まった置戸のクラフト製作は、1983年の「オケクラフトの誕生」と、同年開催された「白い器展」の盛況により、クラフト製作を生業として希望する声があがり始めます。

1984年研修制度がスタートし、現在まで形をかえながら作り手の養成は続けられてきました。

研修生制度の変化

1984年	オケクラフト研修生(1年制)受け入れ
1986年	地域産業生産技術研修奨励金支給要領制定
1987年	オケクラフト研修生(3年制)開始
1992年	町外者受け入れ開始
1997年	2年研修へ移行
1998年	1年研修へ移行
1999年	研修制度募集休止
2000年	オケクラフト時松塾(2年制)開始
2006年	時松塾募集休止(～2010年)
2011年	オケクラフト作り手養成塾(2年制)開始
2013年	作り手養成塾募集休止
2015年	作り手養成塾募集再開 ※時松辰夫氏、名誉塾長就任
2021年	作り手養成塾募集休止 (オケクラフト記念誌参照)



現在(2021.5現在)⇒工房数25工房/作り手26名
塾生1名(2年生)



►現在、日々の指導は現役の作り手が講師となり、座学と実習により、2年間で作り手になるために必要な知識や技術を学んでいます。

作り手の育成に関しては、故時松辰夫氏の力に負うところが大きく、その功績は他に代えがたいものがあります。

※どま工房特別展「時松辰夫展」の詳細は裏面をcheck!

養成塾研修内容

►オケクラフトの作り手は、製作に使用する刃物などの道具を自身で諂(あつら)えます。それは塾生も同じ。入塾後、まず最初に自分自身の道具を全て諂え、それから木工ろくろの作業へと進んでいきます。

【身の回りの道具を諂える】



【諂えた道具で製作する】



- ① 刃物を収納する道具箱の製作
- ② 作業台の製作
- ③ バイト(刃物)の鍛造
- ④ バイトの柄の製作
- ⑤ 諂えたバイトで器を削る
- ⑥ 仕上げた器に塗装を施す

►養成塾の研修では、町内外の関係者から様々な指導を受け、学びを深めています。また卒塾後も、共同工房利用の支援などがあります。

【様々な研修】

◎町外研修►置戸町外で活躍されている職人の方などの職場等に出向いて、お話を聞きながら生産活動の環境や技術を学びます。

◎外部研修►オケクラフトの作り手になるために必要な知識や技術を学ぶため、町内外の木やデザイン関係者、関係機関の方を外部講師としてお招きしたり、開催される研修会に参加して学びます。



【独立後の支援(共同工房)】

►共同工房は1993年(平成5年)に建設された、研修を終えた塾生達が、町内に自身の工房を持つまで最長3年間使用し、製作に取り組める有料の町有施設です。個人工房と塗装室、共同作業所からなり、製品に応じた作業ができます。

現在、令和2年に卒塾した齊藤さんのほか、今年卒塾した前田さんが利用を開始し、製作に励んでいます。

